

今年最後のふよう教室です 1年間 ありがとうございました！！



本年度最後のふよう教室となりました。今年度は8回の開催でしたが、なんと皆勤賞の方がおられました。1・2か月に1回とは言え、1年間続けることはなかなか大変なことです。学校行事や保護者の方の都合、体調不良等もあり、やむなく欠席の方もあったかと思います。『継続は力なり』と言いますが、これからの様々なことに挑戦し取り組んでいってほしいと思います。

このたび、ふよう教室を卒業される4名の方も、ここで培った力を糧に頑張っていてくれると信じています。そして、ふよう教室を卒業されてからも、何かあればいつでも学校までご相談ください。ここでの保護者同士や教職員とのつながりも是非、大切にしていっていただければ幸いです。

【コラム26】 ～脳の中のこびと（ホムンクルス）～

みなさんは「脳の中のこびと」という言葉を聞いたことはありませんか。カナダの脳外科医ペンフィールドが**脳のどの部分がどれくらい運動に関わっているか**を調べてあらわしたもの（図1）です。実際の体の大きさと比べてかなり違っていき、形もずいぶん変わっていますよね。

驚いたことに、**首から上が半分以上**を占めていて、中でも**唇、顎、舌、嚥下（飲み込み）、咀嚼（食べる）**といった**口の部分**と、それらが一緒になり複雑な運動をするために、たくさんの神経が集まっています。

コラム23 “**口の働き**”の中で、口の機能が感覚統合に深く関わっているという話をしましたが、その根拠はまさにこれ！！です。図2は、**脳の中のどの部分がどれくらい感じる感覚神経に関係しているか**を調べたものです。

やはり首から上が半分近くを占めていて、特に**上唇、下唇、歯、歯肉、顎、舌**、が**体中の神経の4分の1**も占めているのが分かります。さらに、他にも味覚と言って味を感じる神経や唾を出す神経もあります。口の中って、特に神経質で敏感な場所ですよ！

そして、脳の運動や神経が位置する図1・2で、口と手指の場所が近いことにお気づきでしょうか？つまり、**口と指先はつながっている**ということです。以前、**口への刺激は脳の活性化や情緒の安定につながる**とお話しましたが、同時にしっかりと**物を噛むことは指先の巧緻性に直結**しています。不器用だからと言ってそこだけに捉われるのではなく、**指先を使った活動を取り入れながら、同時に食事やおやつなどで少し噛み応えのある物を加えていくと、無理なく指先の動きにつながる**と思います。手や指先の動きが気になる方は、是非、お試しください。

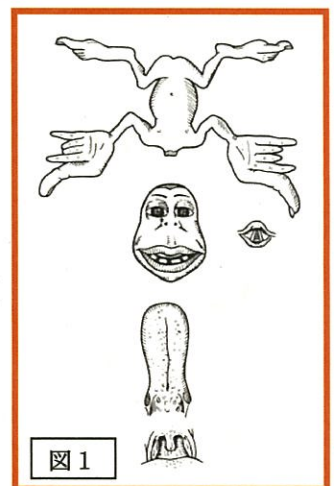


図1

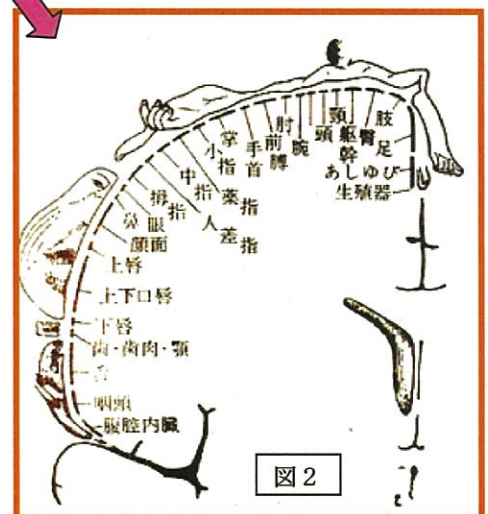


図2

お知らせ

来年度もふよう教室を5月から行います。各学校・園に案内を送付しますので、参加を希望される方は、学校・園を通して早めに申し込んでください。皆様のご参加をお待ちしています。

